

令和6年度学校評価

鯖江市鳥羽小学校長 前川 史典

1 自己評価について(教職員、児童、保護者)

主な評価結果(成果○と課題▲)

スクールプランの重点4項目に向けての具体的な取組について、教職員・児童・保護者対象の評価を実施した。

1 確かな学力の向上;基礎基本と、対話的で主体的な学びの充実

- 自分の考えをノートやタブレットに書いたり伝えたりすることができた。(94%:児童)
- ICT機器やAIドリル、デジタル教科書を活用した授業づくりができた。(95%:教職員)
- 学習を振り返り、次のめあてを持つことができた。(95%:児童)
- 学校は基礎基本の学力身につける指導をしていると思う。(98%:保護者)

▲授業がわかる。(児童 86%)

2 豊かな心の育成;自己有用感と自他を尊重する児童の育成

- 学校が楽しい(94%:児童)、○困ったことがあったら先生やお家の人に相談できた(96%:児童)
- 児童は学校生活に満足している。(95%:保護者)、○学校は相談に適切に対応している。(99%:保護者)
- 相手の立場に立って思いやりのある言葉遣いや行動ができた。(93%:児童)
- 自己肯定感が高まるよう、学級内で互いに認め合う活動を取り入れた。(93%:教職員)

▲自分には良い所が1つはある。(84%:児童)

3 たくましく健やかな体の育成;学校・社会生活を支える心と体の育成

- 生活リズム(早寝、早起き、朝ごはん)を大切にしている。(89%:保護者)
- 業間体育や授業を通して、体力の向上に取り組めた。(100%:教職員)
- 体力づくりに精一杯取り組んだ。(96%:児童)

4 信頼される学校づくり;家庭・地域との連携

- 学校からの便りやHPから、学校の取組や教育活動の様子を十分に知ることができた。(96%:保護者)
- ふるさと学習を通じて、ふるさとの良いところなどがよくわかるようになった。(95%:児童)

▲お子さんは家庭でスマートルールを守っている。(73%:保護者)

改善策・向上策

- ・ ICT機器やデジタル教材を活用したわかりやすい授業づくりに努めてきたが、児童の満足感は目標値(90%)を下回った。基礎基本の定着に向け、効果的なICT活用方法を検討する必要がある。また、ペア学習やグループ学習などの対話的な学習を取り入れ、児童の主体的な学習を促進する必要がある。
- ・ 未然防止的な生徒指導やポジティブ教育を実施することで、児童一人ひとりの自己肯定感を高める必要がある。また、子どもの居場所を守る学級経営と、児童・保護者に対する教育相談活動を実施する。

2 学校関係者評価について

主な評価結果(成果○と課題▲)

家庭地域学校協議会において、次のようなご意見をいただいた。

- 児童の学校生活への満足度で高評価を得ていることはすばらしい。
- 集団登下校時の安全確保について、学校教職員の協力、安全への配慮に感謝している。
- ▲SNSトラブルの噂を聞く。スマートルールについて学校から具体的な規準を出してほしい。
- ▲家庭学習の定着について引き続き取り組んでほしい。紙からデジタルへの移行が児童の読書算に影響があるように感じる。
- ▲あいさつは少しずつ改善してきているそうだが、地域に向けてもう少し元気を出してほしい。

改善策・向上策

- ・ スマートルールの具体的な規準は各家庭に任されている。今後、中学校と連携した指導も検討する。
- ・ 家庭学習は基礎的な学力定着の為に重要。今後も引き続き、児童の状況に合わせた指導、支援を行う。
- ・ あいさつ運動を日常的に継続することで、自分事として意識して行えるよう根気強く指導していく。

3 自己評価、学校関係者評価をふまえた次年度の取組(今後の改善方策)について

- ・ スクールプランの重点4項目における具体的な取組について、今後も引き続き継続実施し実現に努める。特に、
- ・ 学校や家庭において、①ICTを活用した基礎基本の定着、②児童の意欲と主体性を育む学習課題を設定する。
- ・ 児童の自己肯定感を高めるため、①子どもの居場所を守る学級経営、②自己有用感を高められる学習活動を実施する。
- ・ 児童の安心安全のため、①SNS利用等に係る情報モラル教育の実施、②家庭と協力したスマートルールの定着を図る。

4 評価結果、改善策等を地域住民に公表する手だてについて

- ・ 家庭・地域・学校協議会で評価結果及び改善策を公表し、それに対するご意見をいただく。
- ・ メールやHPを通じて、評価結果や改善策を公開。年1回、年度末。